

平成30年度第1回北空知地域入退院支援研修開催結果・評価

項目	内容
1 日時	平成30年9月28日（金） 18：15～20：00
2 内容	1 地域包括ケア病棟紹介 深川市立病院 3階東病棟 飯尾主幹 2 事例紹介「地域包括ケア病棟から在宅へ～退院支援を振り返る～」 深川市立病院 3階東病棟 安立看護師 3 事例検討 「病院から地域（退院）、地域から病院（入院）時のタイムリーな情報共有について」 「本人・家族の思いに寄り添った在宅生活の移行支援について」
3 出席者	看護職43名、介護支援専門員33名、MSW・SW・相談員6名、リハビリ職2名、 薬剤師4名、保健師5名、ヘルパー7名、事務職3名 合計103名
4 結果	1 地域包括ケア病棟紹介 ・手持ち資料なし。スライドのみで紹介。患者・家族から60日間入院していなければいけないという誤った認識が聞かれることから、強調して伝えていた。 2 事例紹介「地域包括ケア病棟から在宅へ～退院支援を振り返る～」 ・一部手持ち資料あり。スライドで事例紹介を実施。 3 事例検討 ・15G、1G6人前後で検討を実施。 ・テーマ2点 「病院から地域（退院）、地域から病院（入院）時のタイムリーな情報共有について」 「本人・家族の思いに寄り添った在宅生活の移行支援について」 ・各グループにファシリテーターを配置。ファシリテーターは開始時刻前に集合し、役割を事務局からレクチャーしたこともあり、混乱なく活発に意見交換できていた。 4 全体共有 (1)「病院から地域（退院）、地域から病院（入院）時のタイムリーな情報共有について」 2G： 本人だけではなく家族や専門職からの情報収集が必要。キーパーソンの確認が必要。事前に情報交換が必要。ケアマネは情報をたくさん持っている 3G： 退院時のサマリーの共有、家の様子の確認、妻の退院支援、退院支援の会議。情報共有の時期は日々利用者の情報交換が必要。入院したらケアマネが頻回に足を運び、やりとりできると良い。看護師もウエルカムの精神で。 (2)「本人・家族の思いに寄り添った在宅生活の移行支援について」 11G： 思いの確認ができていたのか。早期のカンファレンスを実施し、自宅で食事指導ができたならよかった。病院での生活と自宅での生活の違い、細かな情報が必要。誰が困っているのかに焦点をあてることも必要 14G： カンファレンスに参加した人がケアする人に伝えていく。そのギャップを埋めていく必要。足りないところは妻の思いを確認できていなかったところ。妻のアセスメントをし、家族の協力体制を確認、介護力の発掘。退院後に病棟看護師が自宅に訪問してみると良い (3) 退院後の暮らしについて 深川地域訪問看護ステーション 原田所長

項目	内容				
	・妻は本人が在宅生活できると信じて食事や排泄のサポートを惜しみなく実施。妻自身も軽度認知症で治療をしているが、何度も情報を確認するなどの努力をしている。 ・食事はすりつぶす前にそのままの形を本人に確認してもらいその後すりつぶし、自分が何を食べるのかわかるようにしている。 ・排泄は家の中の動線でトイレに行っており、ポータブルトイレは購入したが活用していない。 →終了後病棟看護師はポータブルトイレを活用していないことに驚いていた。自宅訪問してみようかと発言があった。 5 北空知地域入退院支援・調整ルールの説明 居宅介護支援事業所 清祥園 今田管理者 ・入退院支援・調整ルールの説明のあと、次回11月30日第2回研修会の周知を実施				
5 評価 (振り返りを小部会で)	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="177 640 236 1261">企 画</td><td data-bbox="236 640 1524 1261"> ・ 地域の入退院支援の課題に即した企画だったか→○ 入退院支援を実施する上で本人・家族が在宅で生活することをイメージできず、思いを尊重できていたか疑問が残る事例について取り上げ検討できたことは課題に沿った企画だったと考える。 事例検討を積み上げることで入退院支援の力量アップにつながるが、事例提供に抵抗がある現状。事例を提供したことを承認し病棟看護師に成果をフィードバックすることで事例検討の意義を感じる機会となる。今後も事例検討を継続するために、事例検討や事例提供が安心してできる環境を整える必要がある ・ 周知方法→○ 通知文、地域ケア会議等で周知。対象者が支援関係者だったので一般住民向けの広報等は活用していない。参加者は予想60名をはるかに上回る100名超だった。 ・ 会場の状況→△ 予想以上の参加者だったので会場が狭かった。机・椅子の配置は良かった。会場は病院看護師の参加を望むのであれば変更しない方がよい。駐車場が広いのも安心できる </td></tr> <tr> <td data-bbox="177 1261 236 2027">プ ロ セ ス</td><td data-bbox="236 1261 1524 2027"> ・ 小部会の打合せ・準備状況→○ 打合せ回数：部会1回、小部会4回、事務局打合せ1回、事例提供者への依頼・調整 打合せ内容：事例検討企画、事例提供者への調整に関する準備、事例検討のすすめ方、GWテーマ等検討 準備：GWファシリテーターを事前に依頼し打合せを実施したことでGWが混乱なく進めることができていた ・ 小部会のメンバーそれぞれが役割を遂行できたか→○ 準備から実施までそれぞれの役割を持ち実施できた ファシリテーターはメンバーから意見が出ず戸惑うことがあった。→ファシリテーターが困ったときに投げかけるキーワード（例：「あなたはどう思いますか」「今の○○○な意見がありましたが、皆さんはどうですか」「今とても大事な話をしていますが、時間なので次のテーマにうつります」）をレジメに掲載 ・ ねらった参加者の参加→△ 地域の支援関係者はケアマネ、ヘルパーなど介護職が多く参加した 看護職は管理者が多く、若手や中堅看護師の参加が少なかった。次代を担う若い看護職に多く出席してもらえるようアプローチが必要。研修によってはキャリア別研修があっても良いか。 </td></tr> </table>	企 画	・ 地域の入退院支援の課題に即した企画だったか→○ 入退院支援を実施する上で本人・家族が在宅で生活することをイメージできず、思いを尊重できていたか疑問が残る事例について取り上げ検討できたことは課題に沿った企画だったと考える。 事例検討を積み上げることで入退院支援の力量アップにつながるが、事例提供に抵抗がある現状。事例を提供したことを承認し病棟看護師に成果をフィードバックすることで事例検討の意義を感じる機会となる。今後も事例検討を継続するために、事例検討や事例提供が安心してできる環境を整える必要がある ・ 周知方法→○ 通知文、地域ケア会議等で周知。対象者が支援関係者だったので一般住民向けの広報等は活用していない。参加者は予想60名をはるかに上回る100名超だった。 ・ 会場の状況→△ 予想以上の参加者だったので会場が狭かった。机・椅子の配置は良かった。会場は病院看護師の参加を望むのであれば変更しない方がよい。駐車場が広いのも安心できる	プ ロ セ ス	・ 小部会の打合せ・準備状況→○ 打合せ回数：部会1回、小部会4回、事務局打合せ1回、事例提供者への依頼・調整 打合せ内容：事例検討企画、事例提供者への調整に関する準備、事例検討のすすめ方、GWテーマ等検討 準備：GWファシリテーターを事前に依頼し打合せを実施したことでGWが混乱なく進めることができていた ・ 小部会のメンバーそれぞれが役割を遂行できたか→○ 準備から実施までそれぞれの役割を持ち実施できた ファシリテーターはメンバーから意見が出ず戸惑うことがあった。→ファシリテーターが困ったときに投げかけるキーワード（例：「あなたはどう思いますか」「今の○○○な意見がありましたが、皆さんはどうですか」「今とても大事な話をしていますが、時間なので次のテーマにうつります」）をレジメに掲載 ・ ねらった参加者の参加→△ 地域の支援関係者はケアマネ、ヘルパーなど介護職が多く参加した 看護職は管理者が多く、若手や中堅看護師の参加が少なかった。次代を担う若い看護職に多く出席してもらえるようアプローチが必要。研修によってはキャリア別研修があっても良いか。
企 画	・ 地域の入退院支援の課題に即した企画だったか→○ 入退院支援を実施する上で本人・家族が在宅で生活することをイメージできず、思いを尊重できていたか疑問が残る事例について取り上げ検討できたことは課題に沿った企画だったと考える。 事例検討を積み上げることで入退院支援の力量アップにつながるが、事例提供に抵抗がある現状。事例を提供したことを承認し病棟看護師に成果をフィードバックすることで事例検討の意義を感じる機会となる。今後も事例検討を継続するために、事例検討や事例提供が安心してできる環境を整える必要がある ・ 周知方法→○ 通知文、地域ケア会議等で周知。対象者が支援関係者だったので一般住民向けの広報等は活用していない。参加者は予想60名をはるかに上回る100名超だった。 ・ 会場の状況→△ 予想以上の参加者だったので会場が狭かった。机・椅子の配置は良かった。会場は病院看護師の参加を望むのであれば変更しない方がよい。駐車場が広いのも安心できる				
プ ロ セ ス	・ 小部会の打合せ・準備状況→○ 打合せ回数：部会1回、小部会4回、事務局打合せ1回、事例提供者への依頼・調整 打合せ内容：事例検討企画、事例提供者への調整に関する準備、事例検討のすすめ方、GWテーマ等検討 準備：GWファシリテーターを事前に依頼し打合せを実施したことでGWが混乱なく進めることができていた ・ 小部会のメンバーそれぞれが役割を遂行できたか→○ 準備から実施までそれぞれの役割を持ち実施できた ファシリテーターはメンバーから意見が出ず戸惑うことがあった。→ファシリテーターが困ったときに投げかけるキーワード（例：「あなたはどう思いますか」「今の○○○な意見がありましたが、皆さんはどうですか」「今とても大事な話をしていますが、時間なので次のテーマにうつります」）をレジメに掲載 ・ ねらった参加者の参加→△ 地域の支援関係者はケアマネ、ヘルパーなど介護職が多く参加した 看護職は管理者が多く、若手や中堅看護師の参加が少なかった。次代を担う若い看護職に多く出席してもらえるようアプローチが必要。研修によってはキャリア別研修があっても良いか。				

項目	内容
結果	・参加者数→○ 合計 103 名 ・職種→○ 看護職 43 名、介護支援専門員 33 名、MSW・SW・相談員 6 名、リハビリ職 2 名、 薬剤師 4 名、保健師 5 名、ヘルパー 7 名、事務職 3 名 多職種の構成となっている。 看護職が最も多い ・参加者の満足度→○ アンケート結果から概ね満足していると思われる。中には企画を批判する内容のアンケートもあったが参加者全員が満足いく研修会の企画は難しい。 書記は余裕がない印象。事務局で事前に決定していたが、記録をうまくできない参加者もあったため、次回は当日グループで決定し、2人以上で実施することとする。 ・タイムリーな情報共有の必要性和手段について語れたか→○ ・本人・家族の思いに添った支援について語れたか→○ 上記 2 点について、GWのテーマとしていたため語ることができた。 ※今後は研修参加者が今回の学びや明日から実勢したいことを所属で活かしていけるか確認できると良い→2回目のアンケートで確認できると良いか。